[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年 9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2670700281		
法人名	有限会社　アテナメディカル		
事業所名	洛和グループホーム　常盤		
所在地	〒616-8227　京都市右京区常盤草木町9－8 （電　話）075－871－1908		
評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年10月26日

【情報提供票より】（平成　21　年　　7　月　　1　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　13　年　12　　月　20　　日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　　人
職員数	10　　人	常勤　5 人，非常勤　5人，常勤換算　8.0人	

（2）建物概要

建物構造	木・鉄筋　造り
	2 階建ての　　　　1 ～ 2　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	55,000～80,000　円	その他の経費（月額）	28,000　円	
敷　　金	有（　　　　　　円）　　無（○）			
保証金の有無（入居一時金含む）	有（○）（　200,000　円） 無	有りの場合償却の有無	有／無（○）	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,666　円			

（4）利用者の概要（　7　月　　1　日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2	名	要介護2	2	名
要介護3	5	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	84 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸田町病院・なかお七本松歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムの一つである当該ホームは、民家改造型のホームで近隣には、嵯峨野高校や交番、スーパー、商店街などがあり活気あふれた街の中に佇んでいます。小学校の運動会や地域の行事に参加したり、年に1回地域の方とお茶の時間を一緒に過ごすなど地域との交流が積極的に行われています。利用者は、ホーム内を自由に行き来し、2階にある居室や入浴への移動も階段を使い、何気ない行動も運動を兼ねたADLの低下を防ぐ生活リハビリになっています。職員同士の連携がよく取れており、転倒のない見守るケアに日々取り組んでいます。毎日の散歩を日課として、希望に合わせてドライブや外食などの支援を行ない、その人らしい生活を送り穏やかで活気あるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の課題評価であった災害対策では、運営推進会議で話し合い、地域の方にも協力を得られるように働きかけをしています。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価については、職員に自己評価票を配布し記入してもらったものを管理者がまとめました。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

利用者や家族、自治連会長、民生委員、老人会福祉委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから行事報告や面会、散歩、ボランティアなどの状況を報告しています。また、参加者から要望などがあったときの改善策や地域の事についてなどの意見交換をしています。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

重要事項説明書に行政関係やホームの苦情窓口の記載があることを説明し、ホーム玄関に投書箱を置いています。また、運営推進会議の参加や来訪時、電話で積極的に意見を聞いています。法人からの家族アンケートを実施して、その結果をサービスに反映できるように取り組んでいます。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入し回覧板が回ってきたり、地域の方や運営推進会議で行事案内を頂き参加しています。小学校から「運動会の席を取ったので来てください」と案内が来たりギャラリーなどからもお誘いがあり参加しています。また、年に1回地域の方と交流する機会を持っています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「寄り添いその人らしく」をホームの理念としています。地域との交流を大切に、利用者がその人らしく地域で生活出来るようにとの思いから職員で話し合い作りました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに手書きで書かれた理念が掲げられています。介護計画作成時やカンファレンスなどで職員が集まる時に話し合い、理念に基づいたケアが出来ているか振り返り実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板が回ってきたり、地域の方や運営推進会議で行事案内を頂き参加しています。小学校から「運動会の席を取ったので来てください」と案内が来たりギャラリーなどからもお誘いがあり参加しています。また、年に1回地域の方と交流する機会を持っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に配布し記入してもらったものを管理者がまとめました。外部評価を受けた後、職員と話し合う予定をしています。前回の課題評価であった災害対策では運営推進会議で話し合い地域の方にも参加してもらえるように働きかけています。	○	職員にとって評価の意識は一時的なものになっているため、今後は計画的に改善策に取り組みたいと考えられています。職員全員に評価の意義を説明し、評価の結果を活かし計画的に項目ごとの取り組みを実現されることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、自治連会長、民生委員、老人会福祉委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから行事報告や面会、散歩、ボランティアなどの状況を報告しています。また、参加者から要望などがあったときの改善策や地域の事についてなどの意見交換をしています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	右京区の施設連絡会の役員となり、他のグループホームや施設の情報を見に行き話をする機会があります。また、事業所連絡会に区の職員の参加があり相談や情報交換をしています。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書や領収書、出納帳と一緒に利用者の様子を伝えるためコメントを添え送付し、3か月ごとに担当職員が手書きの手紙や職員紹介、外出時、誕生日会の様子を写真に載せた「常盤たより」を郵送しています。来訪時にはその都度、様子を伝え、状況に変化があれば電話で報告しています。利用者ごとのアルバムを作り来訪時に見てもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政関係やホームの苦情窓口の記載があることを説明し、ホーム玄関に投書箱を置いています。また、運営推進会議の参加や来訪時、電話で積極的に意見を聞いています。法人からの家族アンケートを実施して、その結果をサービスに反映できるように取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、シフト調整に気を配り、日頃からコミュニケーションを多く取りながら、仕事が継続できるように心がけています。また、異動や離職があっても、長く勤める職員がフォローしながら利用者にダメージがないようにしています。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画があり、新任や経験年数に応じた研修に参加しています。外部研修では、案内が来たら職員に回覧し、希望や該当する職員が参加しています。参加後は、資料や報告書を残し伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催されるグループホーム協議会に管理者が参加しています。毎月テーマがあり、勉強会や意見交換、他ホームからの発表があり情報交換や交流をしてサービスの向上に努めています。また、事業所連絡会にも参加しています。	○	管理者だけでなく職員にも相互訪問や見学に行き、ホームを振り返る機会が持てるような取り組みを検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、利用者や家族に見学に来てもらい、生活歴や生活環境など多くの情報を得ています。入居後は、コミュニケーションを多く取りながら、少しずつ馴染んでもらえるようにしています。今後、希望があれば家族と相談しながら日帰り体験入居も検討したいと思っています。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、利用者と職員が一緒に生活する中で、コミュニケーションを大切に利用者の得意な事や経験した事など多くの事を学び支え合う関係作りが構築されています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や法人独自の24時間ケア記録を使いながら、利用者の思いや意向の把握に努めています。また、全職員がセンター方式の「心身の情報」を記入する事で、日々利用者とのかかわりの中で何気ない会話からも思いを汲み取れる様に努めています。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	〇チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式や法人独自の様式を使用し、利用者や家族の希望、要望を聞きながら、カンファレンスで話し合い介護計画を作成しています。また、必要に応じて医師の意見も取り入れています。		
16	37	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1回の見直しをしています。3か月ごとに評価をして、変化がなければ継続し、変化があれば随時、見直しをしています。介護日誌を参考にモニタリングやカンファレンスで話し合い介護計画に反映できるようにしています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じての通院介助や馴染みの美容院への付き添いなど、利用者一人ひとりの希望や要望に沿った支援をしています。また、運動をしたいとの希望があり、運動できる施設やサービスを探しています。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。提携医の往診を月に2回、訪問看護を週に1回受けており、日々の健康管理を行っています。相談や24時間対応ができる体制を作り、安心して生活が送れるようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に法人としての指針を説明し、同意を書面で交わしています。状況に応じて医師や家族、職員が話し合いを持ちながら支援しています。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時にはプライバシーについて研修を受けています。日々、利用者と接する中で、馴染みの関係を保ちながら、丁寧な言葉使いや利用者に合わせた方言を使うように心がけています。また、個人情報は鍵の掛かるロッカーに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはありますが、職員が声掛けしながら、利用者の意向や希望に沿った支援ができるように心がけています。毎日の散歩が利用者の日課となり楽しみとなっていますが、その後はリビングで過ごす方や居室で過ごす方もおり、それぞれの居場所で過ごされています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	隔日にスーパーから配達される食材や利用者と一緒に広告を見ながら、食べたいものを聞き献立を決めています。魚をさばいたり、下ごしらえ、後片付け、テーブル拭きなど利用者ができる事に携わってもらっています。また、職員も同じテーブルに着き、同じものを食べ楽しい時間を過ごしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後から夕食前位までの時間に入浴できるように準備しています。1日おきに入浴される方が多く、希望があれば毎日や午前中でも入れる様にしています。また、利用者のタイミングや状況に合わせて、気持ちよく入浴ができるようにしています。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下膳や掃除好きな利用者には声掛けしながら、職員と一緒にしています。毎日の散歩や編み物、お花の先生に来てもらいお花を活けてもらったり、歌好きの利用者は歌の指導に来てもらい楽しみとなっています。利用者の生活歴や残存能力を活かし、楽しみが持てるように取り組んでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や玄関にベンチを置いて外気浴をしています。近隣の公園におにぎりを持って出かけることもあり、毎月の外食やドライブ、アイスクリームを食べに行くなど希望に沿って外出が出来るように支援しています。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一時的に鍵を掛けることもありますが、基本的には鍵を掛けず、センサーで対応ができるようにしています。職員は、鍵を掛けることの弊害を理解しケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署立会いの下避難訓練をしています。また、ホーム独自で2か月に1回、行っています。運営推進会議で地域の方にも協力してもらえるように働きかけています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎回記録しています。以前は水分摂取量を記録していましたが、1600cc位の摂取量が確保できていたため、現在はチェックはせずに水分が十分摂れるように支援しています。野菜が多く摂れる様な献立や歯の状態、嚥下、咀嚼状況を把握しながら塩分控えめで薄味での食事を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のリビングは、使用済みの切手を利用しての貼り絵や季節ごとの絵が描かれた色紙が飾られています。明るく対面式キッチンになっており、皆でテーブルを囲み会話やテレビを見たりとゆっくり楽しく過ごせる空間があります。2階に上がると利用者同士での会話や一人でも過ごせるようソファーや本棚が置いてあります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていたものや大切にしていたものを持ってきてもらうように説明しています。居室でもお茶が飲めるようにポットを置いたり、テレビ、鏡台、ついたてなど家族と相談しながら居心地よく過ごせるように工夫しています。		